

テーマ 9

「知ることで見えてくるもの」（人権課題：北朝鮮当局による拉致問題等）

1 学習のねらい・人権教育の視点

- (1) 「拉致問題」の概要およびその重大さについて理解し、「拉致問題」が人権課題の一つであると認識するとともに、自分に関係のある問題として捉え、問題解決に向けて主体的に行動しようとする意欲や態度を身につける。
- (2) 資料を読むことで、拉致被害者やその家族の苦悩や心情に共感するとともに、在日韓国・朝鮮人の思いについて考えさせ、いじめやヘイトスピーチのない社会をつくろうとする意欲や態度を身につける。

2 指導上の留意点

- (1) 歴史的な経緯については、地理歴史科や公民科での学習との関連づけにも留意する。
- (2) 朝鮮半島につながりのある生徒に対する偏見や差別、いじめ、ヘイトスピーチが生じないように十分配慮することが大切である。
- (3) アニメ「めぐみ」（通常版25分、短縮版15分）と組み合わせることで、拉致問題の概要や拉致被害者やその家族の心情について理解を深めやすい。

3 展開例

学習活動	指導上の留意点、使用する資料
1 資料を読む。	○ 拉致問題の概要についての補足説明をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">拉致問題によって、本人やその家族はどのような人権が侵害されるのだろうか。</div>
2 できなくなること、奪われるものを考え、ペアで相談する。	○ 世界人権宣言や子どもの権利条約を参考に、「人権課題」として拉致問題をとらえさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ある日突然、親しい誰かが、何者かに連れ去られたらどういう気持ちになるだろうか。</div>
3 拉致被害者やその家族の思いを考える。	○ 自分の家族がいなくなった状況を想像しながら、考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">授業で「北朝鮮はひどい」という意見が出たとき、ケンタはどんな気持ちだっただろう。</div>
4 ケンタの気持ちについて考える。	○ 拉致問題は国家の一部の指導グループによる犯罪行為であり、在日韓国・朝鮮人や朝鮮半島にルーツをもつ人々には罪はないことを認識させる。 ○ ヘイトスピーチについて説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">拉致被害者やその家族を支え、拉致問題の解決のために高校生でもできることは何だろう。</div>
5 解決のためにできることを考える。 例： ・忘れず、関心をもち続ける。 ・署名活動に参加する。 ・いろいろな人権課題に関心をもち、自分事と捉えるようにする。	○ 拉致問題も他の人権課題同様に、関心をもち風化させないようにすることや、偏った意見や一面的な理解に流されないこと、困っている人を支え助けたり社会に働きかけたりする具体的な行動が解決につながっていく事を認識させる。 など

4 参考資料

- (1) 「北朝鮮による日本人拉致問題 1日も早い帰国実現に向けて！」
- (2) 「すべての拉致被害者の帰国を目指して－北朝鮮側主張の問題点－」
(いずれも内閣官房拉致問題対策本部ホームページ [URL: <http://www.rachi.go.jp/>])
- (3) 『『ヘイトスピーチ』に対する正しい理解に向けて』(兵庫県教育委員会、平成 29年(2017)年)
- (4) 人権課題「北朝鮮当局による拉致問題等」の指導の手引き～
アニメ「めぐみ」等の活用について～(改訂版)(令和元(2019)年)



【拉致問題Q&A】

Q. なぜ北朝鮮当局は日本人を拉致したのですか？

A. 拉致に関する真相は明らかにされていませんが、北朝鮮当局が拉致という未曾有の国家的犯罪行為を行った背景には、工作人員による日本人への身分の偽装、工作人員を日本人に仕立てるための教育係としての利用などの理由があったとみられています。

Q. 北朝鮮当局による拉致被害者はどれくらいいるのですか？

A. 日本政府が北朝鮮当局による拉致被害者として認定しているのは、兵庫県関係の有本恵子さんと田中実さんを含めて17人です。そのうち、北朝鮮当局が生存を認めた5人のみの帰国が実現していますが、残る12人については、横田めぐみさんや兵庫県出身の有本恵子さんを含む8人は死亡、当時兵庫県在住の田中実さんを含む4人は未入境であると、北朝鮮当局は主張しています。また、このほかにも拉致の可能性を排除できない失踪者が882人(うち、兵庫県出身の失踪者は36人(令和3(2021)年1月現在))おり、現在も政府や警察を中心に調査・捜査が進められています。

※ 兵庫県関係の政府認定拉致被害者

有本 恵子さん (当時 23 歳) 昭和 58(1983)年7月頃、留学先の欧州で失踪。「よど号」犯の妻の証言により、「よど号」ハイジャック犯※とその関係者が有本さんの拉致に関与したと見られる。安否は未確認であるが、北朝鮮は「ガス事故で死亡」と主張している。	
田中 実さん (当時 28 歳) 昭和 53(1978)年6月頃、欧州に向け出国した後失踪。安否未確認であり、北朝鮮は入境を否定している。関係者の証言等から、田中さんは、北朝鮮からの指示を受けた者にだまされて海外に連れ出された後、北朝鮮に送り込まれたことが判明している。	

※「よど号」ハイジャック事件

昭和 45 年(1970)年 3 月 31 日、武装した活動家 9 人が、日本航空 351 便・通称「よど号」を乗っ取り、北朝鮮の飛行場に到着した後、北朝鮮当局に投降した事件。

(参考「北朝鮮による日本人拉致問題 1日も早い帰国の実現に向けて！」(政府拉致問題対策本部)

「すべての拉致被害者の帰国を目指して－北朝鮮側主張の問題点－」(政府拉致問題対策本部))

Q. どうなれば、拉致問題が解決したと言えるのですか？

A. 拉致問題の解決には、以下の三つを実現する必要があります。

- ① 全ての拉致被害者の安全を確保し、すぐに帰国させること。
- ② 北朝鮮当局が、拉致被害の真相を明らかにすること。
- ③ 北朝鮮当局が、拉致を実行した者を日本に引き渡すこと。

【「北朝鮮による日本人拉致問題 1日も早い帰国の実現に向けて！」(政府拉致問題対策本部)より抜粋・編集】

[ワークシート]

知ることで見えてくるもの

年 組 番 名前 _____

- 1 拉致問題によって、拉致被害者やその家族はどのような人権を侵害されているだろうか。

拉致被害者	家族
-------	----

- 2 ある日突然、親しい誰かが、何者かに連れ去られたらどういう気持ちになるだろうか。

--

- 3 授業で「北朝鮮はひどい」という意見が出たとき、ケンタはどんな気持ちだっただろう。

--

- 4 拉致被害者やその家族を支え、拉致問題の解決のために、高校生ができることを考えよう。

--

- 5 この時間の学習の中で、他の人権課題にも生かせると思ったことを書こう。

--